

最前線で活躍する研究者のセミナー

The James Buchanan Brady Urological Institute and
Department of Urology
Johns Hopkins School of Medicine

吉田 栄宏

(ジョンズ・ホプキンス大学医学部泌尿器科学講座)

私は2015年11月から2018年3月まで、米国は Johns Hopkins 大学医学部泌尿器科学講座、Trinity J. Bivalacqua 研究室でポスドクトラルフェローとして膀胱癌の基礎研究に従事する機会を得ました。この留学中に経験したことの一つとして、ここでは「研究セミナーに出席して感じたこと」について書きたいと思います。

米国は現在、世界最大の生命科学研究大国であり、その中でも Johns Hopkins 大学は屈指の施設です。すなわち大学には各分野の最前線で活躍する研究者が多く所属しています。これらの研究者により、あるいは他の大学から著名な研究者が招かれ、それぞれの研究内容に関するセミナーが日常的に実施されます。セミナーは通常、日中の時間に学内で実施されるため、参加が容易です。(なお昼のセミナーにはランチがついており、最前線の研究が聞けるうえ、おまけにランチまでありつけるということで、私は必ず参加していました。) 私は自分自身の研究分野と関連して、特に癌関係のセミナーを中心に参加していました。著名な演者としては、多段階発癌の提唱者で現在はリキッドバイオプシーの開発に注力する Vogelstein 博士、HIF-1を発見し2016年に Lasker 賞を受賞した Semenza 博士、70歳を超えてますます活躍する癌のメチル化研究の第一人者 Baylin 博士が挙げられます。私が専門とする泌尿器科学領域では、前立腺癌に対する bipolar 治療の提唱者である Denmeade 博士や、前立腺癌の去勢抵抗性獲得機序に迫る Sawyers 博士 (MSKCC) のセミナーを聞くことができました。また、私は日本では大学院生として膀胱癌の多細胞スフェロイドを扱った研究を行っていました。そのため自分の研究内容に関連して、collective migration 研究の第一人者で癌転移における EMT の概念を覆そうとする Ewald 博士や、マウスを用いた cell tracing 技術により膀胱癌発癌の起源細胞に迫る Beachy 博士 (Stanford 大学) の最新論文を当時からフォローしていたこともあり、生で彼らの講演を聞くことができた時にはある種の感動を覚えました。これら最前線で活躍する研究者のセミナーはもちろん、斬新で興味深い内容になります。加えて時にプレゼンテーションは熱のこもったものとなり、生の講演ではその迫力を直に感じることができます。そのため私も聞いていて興奮を覚える瞬間が少なからずありました。もちろん日本でも同じような素晴らしい講演に出会えるのです

が、その頻度は世界屈指の Johns Hopkins 大学でのそれとは比較になりません。このような体験は大学院生やフェローが研究をするための動機づけとなり、好循環を生み出すのではないかと感じました。

なお本留学の実現にあたっては、特にご尽力してくださった大阪大学泌尿器科の野々村祝夫教授にこの場を借りて感謝申し上げます。ご協力いただいた大阪大学泌尿器科同門会の先生方、ご支援いただいた上原記念生命科学財団の皆様にも感謝申し上げます。また異国の地で楽しく過ごせる環境を築いてくれた妻・長女・長男にも感謝したいと思います。

(30.3.18受領)